

会議等名	平成 26 年 第 2 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 26 年 4 月 2 日 (水) 10 : 00 ~ 12 : 00
場 所	海老名市役所 3 階 政策審議室
出席者	出席者：大治委員長、城向副委員長、市川副委員長、青木委員、阿部委員、霜田委員、諏訪委員、高橋委員、山田委員、菅生委員、長谷川委員 (以上 11 名出席) 欠席者：大島委員 海老名市：伊藤企画財政課長、告原課長補佐兼政策経営係長、久保寺主任主事、西尾
<p>1 開 会 告原課長補佐兼政策経営係長</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 外部評価対象事業の抽出及び行政評価調書の見方について（グループ毎での確認作業の事前説明） 資料 1～4、参考資料 1～3、第 1 回資料（平成 26 年度行政評価スケジュール（案））に基づき、事務局から説明</p> <p><主な質疑応答></p> <p>【委 員】 外部評価対象事業の選定は、資料 2 の“◎”印の付いている政策単位で抽出しなければならないのか。</p> <p>【事務局】 第四次総合計画後期基本計画では、政策毎に基本方針が定められているため、政策単位で施策・事業を抽出した方が市が何を目指して取り組んでいるか等理解しやすいと考え、事務局案として提案させていただいている。</p> <p>【委 員】 内部評価でも同様の手法で施策・事業を抽出するのか。</p> <p>【事務局】 行財政改革推進委員会にて行う内部評価では、外部評価対象事業となった施策・事業については確実に評価を行う。現実的には、それに追加して評価を行うことは難しいと考えている。</p> <p>【委 員】 行政評価の対象から教育委員会所管事業を除外したとの説明があったが、</p>	

市の総合計画にも位置付けられており、少子化が進んでいる現状にある中で、青少年に視点を置いた評価は市の行政評価として実施しておくべきではないか。

【事務局】 教育委員会は市の行政機関から独立した組織であり、また、法律に基づき、市で行っている行政評価と同様の点検・評価を実施している。また、市の外部評価委員会と同様、外部の方が評価する場も設定している。

平成 20～24 年度は重複して評価し、市の評価は参考意見として教育委員会に提示していたが、平成 25 年度以降は別々に評価するよう整理している。

【委員】 条例の趣旨からすると、教育委員会所管事業もこの外部評価委員会が評価する事業に含むのではないか。

【事務局】 条例の趣旨からすると対象に入るとは思うが、同様の評価を教育委員会にて行っているため、重複しないよう整理している。

【委員】 予算は市で計上している以上、市も評価するべきではないのか。

【事務局】 教育委員会で実施した点検・評価の結果を見て予算に反映している。予算執行権のある市長も評価結果を理解した中で予算を決めている。

【委員】 教育委員会はいつから自ら評価を行っているのか。

【事務局】 法に基づいて実施しているため、平成 20 年度か 21 年度辺りからだと思う。
また、議会への報告も義務付けられている。

【委員】 事務局案として昨年度外部評価対象事業となった事業については今年度の外部評価対象事業としない旨の説明があったが、今回新たなメンバーになっているため、昨年度実施した事業を評価してもよいのではないか。

【事務局】 事務局案として提示させていただいており、決定ではない。
外部評価委員会から意見を頂くことは重要なことであり、また、職員が外部評価委員に納得いただける説明ができるようにすることも市長は重要視している。そのため、偏った事業ばかり評価して頂くのではなく、広く色々な事業に対して意見を頂ければと考えている。
2 年連続でなく、隔年で評価していただくのは構わないのではないかと考えている。

【委員】 施策・事業の選定については、委員それぞれで問題・感心のある項目があると思うため、全事業を対象として選定した方がいいのではないか。

また、グループ毎で話し合っただけで決めることも重要ではないか。

【委員】 今回、初めての委員が多いため、実際に評価してみなければどの事業を評価すべきか分からない。まずは事務局や経験者で評価対象事業を決めていただいた方がわかりやすいかもしれない。

【委員長】 初めての委員も多いことから、事務局案として提示された“政策単位で施策・事業を選定し、昨年度外部評価対象事業及び教育委員会所管事業を除外して選定する”こととしてよろしいか。

【委員】 異議なし。

【委員】 施策評価を今後どのように先に繋げていくのか。

【事務局】 施策評価を発展させて政策評価を実施できればベストであるが、以前政策評価を試みたことがあり、難しかった経緯がある。

今回はまず、施策評価を実施してみて、意見や提案等を頂き、次年度以降に繋がりたいと考えている。政策評価が実施できそうであればその際に考えたい。

(2) 評価作業を実施するグループ分け

以下のとおり決定

- ・ Aグループ → 大治委員長、高橋委員、山田委員、長谷川委員
- ・ Bグループ → 城向副委員長、青木委員、阿部委員、大島委員
- ・ Cグループ → 市川副委員長、霜田委員、諏訪委員、菅生委員

(3) グループ毎での確認作業（具体的評価作業方法の確認、外部評価対象施策・事業案の選定等）

(4) 平成 26 年度外部評価対象事業の選定について

以下のとおり決定

<評価対象施策・事業が位置付けられている政策>

- ・ Aグループ → 第 1 章 政策 1：元気で健康なまちづくり
第 3 章 政策 1：子どもを安心して育てる環境づくり
- ・ Bグループ → 第 1 章 政策 4：健全な心と身体を築くスポーツの振興
第 2 章 政策 1：活発な地域コミュニティの促進
第 6 章 政策 2：持続可能な都市経営の推進
- ・ Cグループ → 第 4 章 政策 3：都市活動を支える基盤整備
第 4 章 政策 8：環境負荷が少ない循環型社会の形成

(5) その他

平成 26 年 第 3 回海老名市外部評価委員会の日程について（グループ毎）

○Aグループ

- ・日 時 平成 26 年 5 月 23 日（金）午前 9 時より
- ・場 所 （後日通知）

○Bグループ

欠席者がいたため、後日調整

○Cグループ

- ・日 時 平成 26 年 5 月 23 日（金）午後 1 時 30 分より
- ・場 所 （後日通知）

4 閉 会

告原課長補佐兼政策経営係長

以 上